

早期発見のために

前兆となる

サイン

を鋭く見抜く目

学校で見られるサイン

- 授業中に頭痛や腹痛を訴えたり、保健室に行ったりすることが多くなる。
- 継続的な欠席や理由のはっきりしない欠席が増える。
- 月曜日など特定の曜日に欠席したり、遅刻や早退したりすることが多くなる。
- 教科の好き嫌いが急に変わる。
- 成績の急激な低下や勉強嫌いが見られるようになる。
- 忘れ物をしたりぼんやりしたりすることが多くなる。
- 学習への取組みが消極的になってくる。
- 教師や友達の視線を避けたがるようになる。
- 休み時間も一人でいることが多くなる。
- 友達に「学校がつまらない」「学校へきたくない」などと言うようになる。

家庭で見られるサイン

- 登校時に頭痛、腹痛、気分不快等を訴えたり、嘔吐や下痢をしたりするようになる。
- 前日は登校の準備をするが、朝になると、「行きたくない」と言うようになる。
- 朝食や身支度に長い時間をかけたり、グズグズしたりすることが多くなる。
- 登校時に不快感を訴えることが多くなっても、昼ごろには正常な様子になる。
- 朝起きない等、日常生活の乱れがみられるようになる。
- 友達と会ったり遊んだりすることを避けるようになる。
- 来客を嫌い、部屋の中にひきこもったりすることが増える。
- 学校に関する話題を嫌うようになる。
- 家族とのトラブル等が多くなる。

児童生徒の変化をとらえるために

- 1 学校や学級における学習態度や生活態度を把握する。
- 2 頭痛、腹痛、気分不快等による欠席や早退、遅刻の状況をとらえる。
- 3 家庭生活の様子等、保護者からの情報を収集する。
- 4 学級経営誌の個票や交友関係調査票等を活用する。
- 5 児童生徒の日記や作文等の資料を活用する。
- 6 他の教職員、特に養護教諭や教科担任教師から情報を収集する。